

第209回 (23/Ⅱ期)

群馬県内企業経営動向調査

(ビジネス・サーベイ)

ぐんぎんコンサルティング株式会社 企画リサーチ部 上級コンサルタント 井草祐美
(前群馬経済研究所研究員)

◆調査概要

～業況判断DIは、2期連続のマイナスとなる～

- 2023年4～6月期の県内企業の業況判断DIは△0.2と、2期連続のマイナスとなった。原材料費等の高騰は継続しているが、新型コロナの5類感染症への移行などにより経済活動が活性化し、「悪化」超幅は縮小した。
- 内訳項目をみると、生産・販売（売上・受注）DIは2期連続の「減少」超となったが、「減少」超幅は縮小した。製商品（販売）価格DIは「上昇」超が続き、原材料（仕入）価格DIは「上昇」超幅が依然高止まりしている。採算DIは「悪化」超幅が縮小した。人員判断DIは「不足」超が続いた。
- 業種別の業況判断DIでは、製造業が2.2に転じ、非製造業が△1.9となった（12頁）。製造業では、生産・販売（売上・受注）が増加し、製商品（販売）価格も上昇した。非製造業では、旅館・ホテル、飲食などのサービス業で国内需要が増加したが、全体ではマイナスでの推移となった。
- 経営上の問題点では、「原材料費の値上がり」が引き続き最多となり、「求人難」「人件費等経費の増加」が続いた（17頁）。
- 2023年7～9月期の業況判断DIは4.9と「好転」超に転じる見通しである。

項目別DI推移

(数字の前の「△」はマイナスを意味する)

年・月期	業況判断	生産・販売 (売上・受注)	製商品 (販売)価格	原材料 (仕入)価格	採 算	設備投資	資金繰り	在庫水準	人員判断
21・1～3	△19.0	△21.9	△ 3.7	21.5	△20.5	△10.7	△ 1.5	△10.2	△17.1
4～6	△ 9.1	△12.1	2.4	32.1	△18.0	△ 4.8	2.3	△ 6.9	△17.1
7～9	△ 2.8	△ 6.0	2.9	42.1	△17.5	△ 6.7	2.8	△ 9.7	△25.3
10～12	1.5	5.5	13.0	60.1	△16.5	△ 2.3	1.8	△ 3.1	△26.3
22・1～3	△18.9	△18.1	12.6	61.4	△30.8	△ 5.9	△ 4.2	△ 4.3	△28.4
4～6	△ 7.2	△ 5.8	23.8	74.3	△25.6	△ 7.6	△ 2.3	△ 7.9	△26.8
7～9	△ 6.2	△ 3.2	27.1	71.8	△27.3	△ 8.2	△ 0.2	△ 8.5	△33.2
10～12	2.2	5.0	30.3	69.6	△19.2	△ 5.2	△ 1.9	△ 6.5	△37.0
23・1～3	△10.4	△10.6	24.3	62.7	△24.2	△ 4.5	△ 4.7	△12.3	△35.7
4～6	△ 0.2	△ 1.3	24.4	56.1	△12.0	△ 3.7	0.2	△14.3	△34.9
(前 期 比)	(10.2)	(9.3)	(0.1)	(△ 6.6)	(12.2)	(0.8)	(4.9)	(△ 2.0)	(0.8)
(前回予測比)	(△ 2.3)	(△ 5.7)	(1.0)	(4.7)	(△ 2.3)	(△ 0.7)	(3.2)	(△ 9.1)	(△ 1.8)
23・7～9見通し	4.9	6.7	19.6	42.7	△ 4.7	△ 1.1	0.9	△ 6.8	△35.7
(前 期 比)	(5.1)	(8.0)	(△ 4.8)	(△13.4)	(7.3)	(2.6)	(0.7)	(7.5)	(△ 0.8)
D I	好転－悪化	増加－減少	上昇－低下	上昇－低下	好転－悪化	増加－減少	余裕－窮屈	不足－過剰	過剰－不足

◆調査要領

1. 調査の目的

群馬県内の景気動向と先行きを予測し、県内主要産業の実態を把握する。

2. 調査対象企業

群馬銀行の取引先を中心に1034社

回答社数450社（回答率43.5%）うち製造業187社 非製造業263社

3. 調査方法

記名式で当研究所の指定した項目について、その実績と見通しを記入するよう依頼した。

4. 調査時期

2023年5月上旬～6月上旬

5. 調査対象期間

2023年4～6月期実績、2023年7～9月期見通し（前期比）

◆回答状況

調査回答数

	会社数	構成比 (%)	うち 中小企業	地域別		
				中央部	東 部	その他
製 造 業	187	41.6	180	69	86	32
食 料 品	27	6.0	27	13	8	6
織 維	10	2.2	10	3	6	1
木 材 木 製 品	5	1.1	5	2	2	1
窯 業 土 石	9	2.0	9	4	2	3
電 気 機 器	14	3.1	14	3	9	2
輸 送 機 器	28	6.2	25	7	19	2
金 属 製 品	34	7.6	34	12	16	6
一 般 機 械	17	3.8	16	11	4	2
そ の 他	43	9.6	40	14	20	9
非 製 造 業	263	58.4	249	144	69	50
卸 売 業	57	12.7	56	37	16	4
小 売 業	40	8.9	34	28	8	4
建 設 業	70	15.6	67	31	22	17
サ ー ビ ス 業	96	21.3	92	48	23	25
合 計	450	100.0	429	213	155	82

注1：地域別

中央部…前橋・高崎地域
東 部…桐生・伊勢崎・太田・館林地域
その他…上記以外の地域

注2：中小企業

製造業……資本金3億円以下または
従業員300人以下
卸売業……資本金1億円以下または
従業員100人以下
小売業……資本金5千万円以下または
従業員50人以下
サービス業…資本金5千万円以下または
従業員100人以下

注3：その他の製造業に含まれる業種

パルプ・紙・紙加工品製造業
印刷・同関連業
化学工業
石油製品・石炭製品製造業
プラスチック製品製造業
ゴム製品製造業
その他、他に区分されない製造業

■本文中にあるDIについて

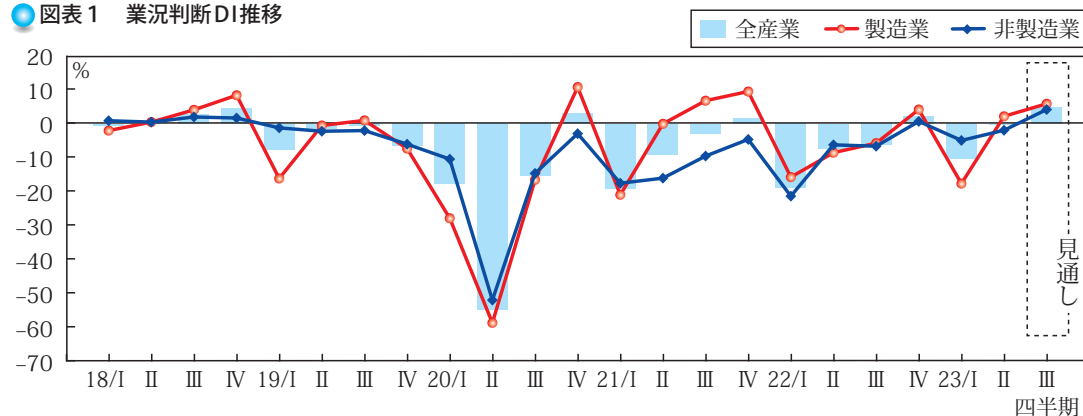
DIは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略。好転した企業の割合から悪化した企業の割合を差し引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

例えば、回答した企業のうち30%の企業で生産が増加し、10%の企業が減少した場合、DI値は「 $30 - 10 = 20$ 」となる。DI値は、好不況等の浸透度を測るためのもので、量的大きさを測ることを直接の目的としていない。このため、DI値から生産が高水準であるのか、低水準であるのかの判断が困難な面もあるので、従来からの推移をみて増加傾向にあるのか、低下傾向にあるのかを判断する。

1. 自社業況判断

～2期連続のマイナスとなったが、「悪化」超幅は縮小した～

●図表1 業況判断DI推移



	23/I 実績	23/II (4～6月)		23/III 見通し
		前回予測	実績	
好転	13.2	(14.8)	16.5	16.1
変わらず	63.2	(72.5)	66.8	72.7
悪化	23.6	(12.7)	16.7	11.2
全産業DI	△10.4	(2.1)	△0.2	4.9

製造業DI	△17.6	(3.2)	2.2	5.9
食料品	△31.8	(△4.5)	25.9	3.7
繊維	△37.5	(0.0)	0.0	△20.0
木材木製品	△33.3	(0.0)	△40.0	20.0
窯業土石	0.0	(△37.5)	△11.1	△11.1
電気機器	11.8	(0.0)	0.0	14.3
輸送機器	△28.6	(17.9)	7.4	29.6
金属製品	△8.6	(17.1)	△2.9	11.8
一般機械	△16.6	(△5.6)	5.9	△5.8
その他	△19.5	(0.0)	△4.6	△2.4
非製造業DI	△4.9	(1.3)	△1.9	4.2
卸売業	△4.4	(11.1)	△1.8	△7.0
小売業	5.3	(0.0)	5.0	2.5
建設業	△1.6	(△3.2)	△10.1	4.4
サービス	△11.0	(0.0)	1.0	11.4

【23年4～6月期】

○全産業

原材料費等の高騰は継続しているが、新型コロナの5類感染症への移行などにより経済活動が活性化し、全体のDIは△0.2と、「悪化」超幅は縮小した。

○製造業

業務用の需要が増加した食料品や半導体の調達環境が改善した輸送機器などで「好転」超となった。製造業全体のDIは2.2と、「好転」超に転じた。

○非製造業

旅館・ホテル、飲食などのサービス業で国内需要が増加し「好転」超となった。また、小売業のうち大型商業施設が好調であった。一方、建設業は年度初めで一時的に悪化が増加した。非製造業全体のDIは△1.9と、「悪化」超幅がやや縮小した。

【23年7～9月期（見通し）】

○全産業

DIは4.9と「好転」超に転じる見通し。

○製造業

「好転」超が続く見通し。

○非製造業

「好転」超に転じる見通し。

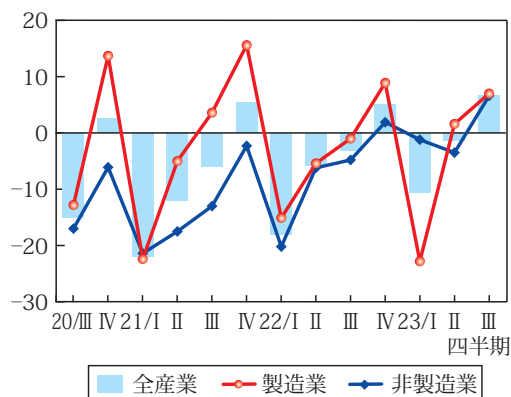
2. 項目別動向

(1)生産・販売(売上・受注)

～「減少」超幅は縮小～

	23/Ⅰ 実績	23/Ⅱ(4-6月) 前回予測	23/Ⅱ(4-6月) 実績	23/Ⅲ 見通し
増加	17.1	(18.9)	20.4	19.7
横ばい	55.2	(66.6)	57.9	67.3
減少	27.7	(14.5)	21.7	13.0
全産業DI	△10.6	(4.4)	△1.3	6.7
製造業DI	△22.8	(5.3)	1.6	7.0
食料品	△27.3	(9.1)	29.6	14.8
繊維	△62.5	(0.0)	0.0	△10.0
木材木製品	△33.3	(0.0)	△40.0	20.0
窯業土石	△12.5	(△12.5)	△22.2	△11.1
電気機器	0.0	(△5.9)	△28.6	14.3
輸送機器	△25.0	(14.3)	10.7	28.6
金属製品	△20.0	(17.2)	0.0	5.8
一般機械	△22.2	(0.0)	11.7	△17.6
その他	△23.9	(0.0)	△4.7	2.3
非製造業DI	△1.2	(3.7)	△3.5	6.6
卸売業	△4.4	(8.9)	△5.3	△7.1
小売業	7.8	(△5.3)	5.0	5.0
建設業	6.5	(4.9)	△17.4	8.7
サービス	△8.0	(4.0)	4.3	14.0

● 図表2-1 生産・販売(売上・受注)DI推移(23/Ⅲは見通し)



【23年4～6月期】

○製造業

食料品、輸送機器、一般機械で「増加」超となった。全体でも「増加」超に転じた。

○非製造業

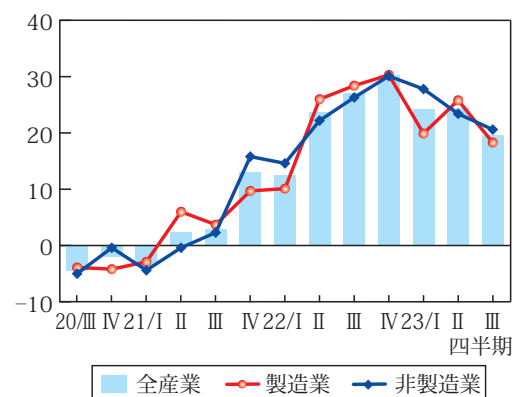
旅館・ホテルなどのサービス業で「増加」超に転じたが、建設業で「減少」超となり、全体でも「減少」超が続いた。

(2)製商品(販売)価格

～「上昇」超が続く～

	23/Ⅰ 実績	23/Ⅱ(4-6月) 前回予測	23/Ⅱ(4-6月) 実績	23/Ⅲ 見通し
上昇	27.4	(25.5)	29.0	21.7
横ばい	69.5	(72.4)	66.4	76.2
低下	3.1	(2.1)	4.6	2.1
全産業DI	24.3	(23.4)	24.4	19.6
製造業DI	19.9	(19.8)	25.8	18.3
食料品	19.1	(38.1)	51.9	33.3
繊維	0.0	(0.0)	△20.0	0.0
木材木製品	0.0	(0.0)	40.0	0.0
窯業土石	37.5	(75.0)	66.7	11.1
電気機器	17.6	(11.8)	35.7	35.7
輸送機器	10.7	(10.7)	10.8	7.1
金属製品	17.1	(17.1)	23.5	23.5
一般機械	16.7	(5.6)	17.6	11.8
その他	33.3	(24.4)	21.4	16.6
非製造業DI	27.8	(26.2)	23.4	20.6
卸売業	57.8	(37.8)	35.1	28.0
小売業	42.1	(36.9)	32.5	40.0
建設業	25.4	(23.7)	13.6	13.7
サービス	9.4	(17.9)	19.1	12.4

● 図表2-2 製商品(販売)価格DI推移(23/Ⅲは見通し)



【23年4～6月期】

○製造業

ほぼすべての業種で「上昇」超となり、全体でも「上昇」超が続いた。

○非製造業

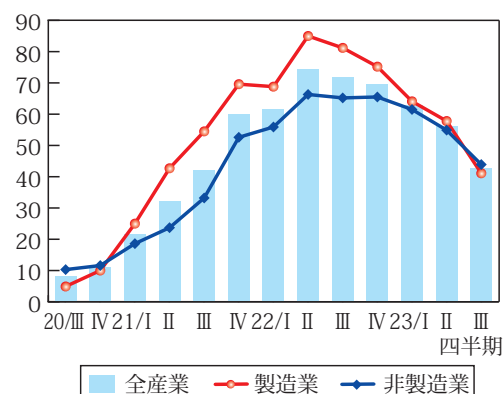
全業種で「上昇」超が続いた。小売業のうち、百貨店・スーパー・量販店では「上昇」超幅が大きくなっている。

(3)原材料（仕入）価格

～大幅な「上昇」超が続く～

	23/I 実績	23/II(4-6月) 前回予測	23/II(4-6月) 実績	23/III 見通し
上昇	64.1	(51.9)	57.9	43.4
横ばい	34.5	(47.6)	40.3	55.9
低下	1.4	(0.5)	1.8	0.7
全産業DI	62.7	(51.4)	56.1	42.7
製造業DI	64.1	(49.2)	57.8	41.1
食料品	81.9	(72.7)	74.1	63.0
繊維	87.5	(75.0)	50.0	60.0
木材木製品	△16.7	(0.0)	20.0	20.0
窯業土石	87.5	(100.0)	88.9	33.3
電気機器	70.6	(52.9)	61.5	38.5
輸送機器	50.0	(28.6)	53.5	28.6
金属製品	62.9	(37.1)	35.3	35.3
一般機械	66.7	(50.0)	64.7	41.2
その他	64.4	(51.1)	64.3	40.5
非製造業DI	61.5	(53.2)	54.9	43.9
卸売業	71.1	(51.1)	59.6	38.6
小売業	56.8	(43.2)	55.0	55.0
建設業	68.3	(53.3)	58.0	43.5
サービス	54.6	(57.7)	49.4	42.9

● 図表 2-3 原材料（仕入）価格DI推移（23/IIIは見通し）



【23年4～6月期】

○製造業

全業種で「上昇」超となった。特に食料品、窯業土石などで「上昇」超幅が高止まりしている。

○非製造業

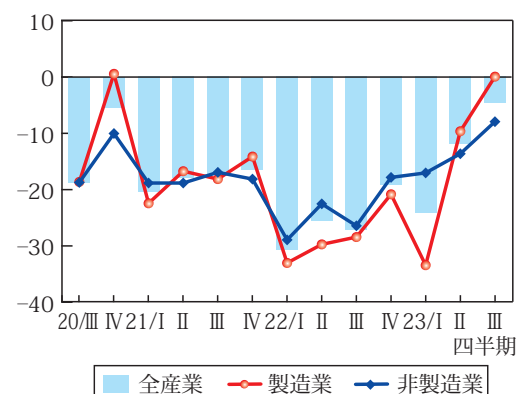
全業種で「上昇」超となった。

(4)採算

～「悪化」超幅は縮小～

	23/I 実績	23/II(4-6月) 前回予測	23/II(4-6月) 実績	23/III 見通し
好転	9.0	(10.1)	10.9	11.8
変わらず	57.8	(70.1)	66.2	71.7
悪化	33.2	(19.8)	22.9	16.5
全産業DI	△24.2	(△9.7)	△12.0	△4.7
製造業DI	△33.5	(△9.0)	△9.7	0.0
食料品	△45.5	(△18.2)	3.7	△3.7
繊維	△75.0	(△12.5)	△30.0	△10.0
木材木製品	△33.3	(16.6)	△40.0	0.0
窯業土石	△25.0	(△37.5)	△11.1	△11.1
電気機器	△23.6	(△11.7)	△14.3	0.0
輸送機器	△32.2	(7.1)	△10.8	21.4
金属製品	△25.7	(0.0)	△11.8	11.7
一般機械	△27.7	(△22.2)	0.0	△17.6
その他	△34.8	(△13.1)	△9.3	△9.3
非製造業DI	△17.1	(△10.2)	△13.7	△8.0
卸売業	△13.3	(0.0)	△5.2	△12.3
小売業	0.0	(△15.8)	△7.5	△2.5
建設業	△19.3	(△9.6)	△20.3	△13.1
サービス	△23.8	(△12.9)	△16.7	△4.2

● 図表 2-4 採算DI推移（23/IIIは見通し）



【23年4～6月期】

○製造業

7業種で「悪化」超が続いたが、「悪化」超幅は縮小した。

○非製造業

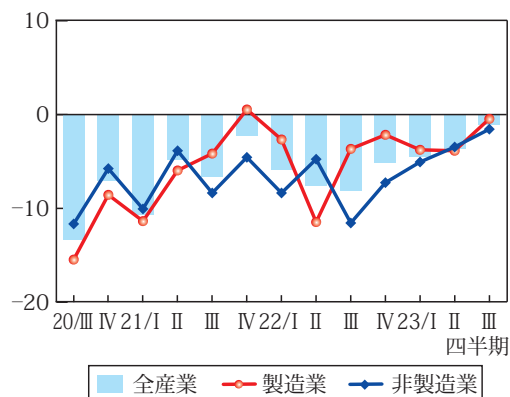
乗用車販売や石油製品などの小売業で「悪化」超に転じ、全体でも「悪化」超が続いた。

(5)設備投資

～「減少」超が続く～

	23/Ⅰ 実績	23/Ⅱ(4～6月) 前回予測	23/Ⅱ(4～6月) 実績	23/Ⅲ 見通し
増 加	10.5	(8.6)	10.3	10.6
横ばい	74.5	(79.8)	75.7	77.7
減 少	15.0	(11.6)	14.0	11.7
全産業DI	△4.5	(△3.0)	△3.7	△1.1
製造業DI	△3.8	(△4.3)	△3.9	△0.5
食料品	4.7	(△4.8)	0.0	18.5
繊維	△25.0	(△25.0)	△22.2	0.0
木材木製品	0.0	(0.0)	20.0	20.0
窯業土石	△14.3	(△28.6)	0.0	0.0
電気機器	5.8	(5.9)	△7.1	0.0
輸送機器	0.0	(△3.6)	△28.5	3.6
金属製品	3.0	(3.0)	10.0	△10.0
一般機械	△22.2	(△5.6)	△11.8	△11.8
その他	△6.6	(△6.5)	4.6	△7.0
非製造業DI	△5.1	(△2.1)	△3.5	△1.6
卸売業	△4.9	(△2.4)	1.9	△7.4
小売業	0.0	(△5.5)	0.0	13.2
建設業	△12.9	(△14.5)	△13.0	△14.5
サービス	△2.0	(7.2)	△1.1	5.5

図表2-5 設備投資DI推移(23/Ⅲは見通し)



【23年4～6月期】

○製造業

全体では「減少」超が続いた。設備投資の目的では、老朽化対応、生産・販売能力向上が中心であった。

○非製造業

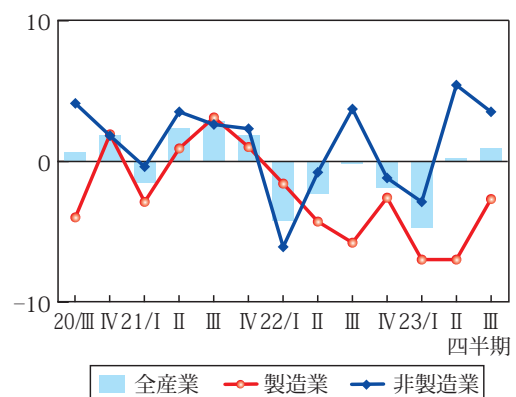
建設業とサービス業で「減少」超となった。設備投資の目的では、老朽化対応が目立った。

(6)資金繰り

～8割が「普通」～

	23/Ⅰ 実績	23/Ⅱ(4～6月) 前回予測	23/Ⅱ(4～6月) 実績	23/Ⅲ 見通し
余 裕	8.9	(8.5)	10.6	10.1
普 通	77.5	(80.0)	79.0	80.7
窮 屈	13.6	(11.5)	10.4	9.2
全産業DI	△4.7	(△3.0)	0.2	0.9
製造業DI	△7.0	(△5.4)	△7.0	△2.7
食料品	△13.7	(△9.1)	△7.4	△3.7
繊維	△12.5	(△25.0)	△20.0	△50.0
木材木製品	33.3	(16.6)	40.0	60.0
窯業土石	△12.5	(△12.5)	△11.1	△11.1
電気機器	0.0	(△11.7)	0.0	0.0
輸送機器	△21.4	(△17.9)	△17.8	△10.7
金属製品	△8.6	(△5.7)	△11.7	△2.9
一般機械	5.5	(16.6)	0.0	6.2
その他	△4.5	(0.0)	△2.3	4.7
非製造業DI	△2.9	(△1.3)	5.4	3.5
卸売業	△4.6	(△2.3)	5.3	3.5
小売業	△2.7	(△5.4)	△2.5	△5.0
建設業	3.4	(5.0)	7.2	5.8
サービス	△6.2	(△3.1)	7.5	5.3

図表2-6 資金繰りDI推移(23/Ⅲは見通し)



【23年4～6月期】

○製造業

6業種で「窮屈」超となり、全体でも「窮屈」超が続いた。

○非製造業

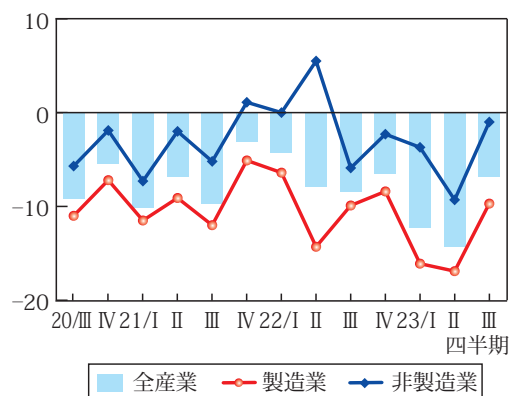
卸売業、建設業、サービス業で「余裕」超となり、全体でも「余裕」超に転じた。

(7)在庫水準

～「過剰」超が続く～

	23/I 実績	23/II(4-6月) 前回予測	23/II(4-6月) 実績	23/III 見通し
不足	8.6	(6.0)	5.0	4.6
適正	70.5	(82.8)	75.7	84.0
過剰	20.9	(11.2)	19.3	11.4
全産業DI	△12.3	(△5.2)	△ 14.3	△6.8
製造業DI	△16.1	(△8.0)	△ 16.9	△9.7
食料品	△13.7	(△4.6)	△ 14.8	0.0
繊維	△12.5	(0.0)	0.0	0.0
木材木製品	0.0	(0.0)	△ 20.0	0.0
窯業土石	12.5	(0.0)	△ 12.5	△12.5
電気機器	△11.7	(△11.7)	△ 35.8	△35.7
輸送機器	△35.7	(△21.4)	△ 22.2	△3.7
金属製品	△14.3	(△5.7)	△ 5.9	△8.9
一般機械	△11.1	(0.0)	△ 31.2	△12.5
その他	△18.2	(△9.1)	△ 16.2	△14.0
非製造業DI	△3.7	(1.2)	△ 9.3	△1.0
卸売業	△8.9	(△6.7)	△ 19.3	△10.5
小売業	2.7	(10.8)	5.1	12.8
建設業	0.0	(0.0)	0.0	0.0
サービス	0.0	(0.0)	0.0	0.0

図表 2-7 在庫水準DI推移(23/IIIは見通し)



注)非製造業のうち、建設業、サービス業は対象外

【23年4～6月期】

○製造業

売上の減少した電気機器で在庫が増加した。
一般機械は増産基調のため在庫が増えた。
全体でも「過剰」超が続いた。

○非製造業

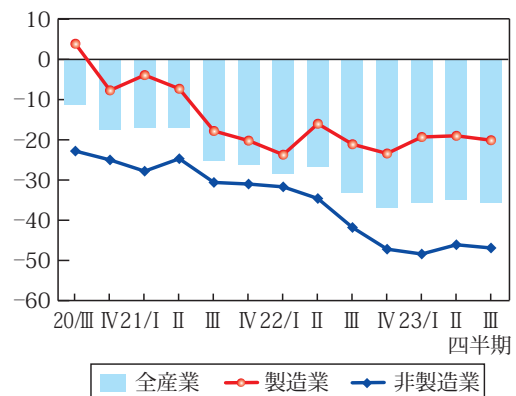
卸売業で「過剰」超が続き、全体でも「過剰」超が続いた。

(8)人 員

～「不足」超が続く～

	23/I 実績	23/II(4-6月) 前回予測	23/II(4-6月) 実績	23/III 見通し
過剰	8.0	(5.6)	5.4	4.1
適正	48.3	(55.7)	54.3	56.1
不足	43.7	(38.7)	40.3	39.8
全産業DI	△35.7	(△33.1)	△ 34.9	△35.7
製造業DI	△19.3	(△20.5)	△ 19.0	△20.1
食料品	△31.9	(△36.4)	△ 33.3	△29.6
繊維	△25.0	(△37.5)	△ 10.0	△20.0
木材木製品	△50.0	(△33.3)	△ 40.0	△40.0
窯業土石	△37.5	(△37.5)	△ 37.5	△25.0
電気機器	△35.3	(△29.4)	△ 15.4	△15.4
輸送機器	17.8	(0.0)	△ 10.7	△10.7
金属製品	△17.2	(△14.2)	△ 2.9	△11.7
一般機械	△5.5	(△5.5)	△ 12.5	△12.5
その他	△29.5	(△25.0)	△ 27.9	△27.9
非製造業DI	△48.4	(△42.9)	△ 46.1	△46.9
卸売業	△35.5	(△31.1)	△ 44.6	△44.6
小売業	△29.7	(△27.0)	△ 46.1	△38.5
建設業	△63.3	(△51.7)	△ 47.8	△53.7
サービス	△52.1	(△49.0)	△ 45.7	△46.8

図表 2-8 人員DI推移(23/IIIは見通し)



【23年4～6月期】

○製造業

全業種で「不足」超となった。

○非製造業

全業種で大幅な「不足」超となった。小売業では百貨店・スーパー・量販店、サービス業では旅館・ホテルなどを中心に「不足」超となった。

3. 経営上の問題点

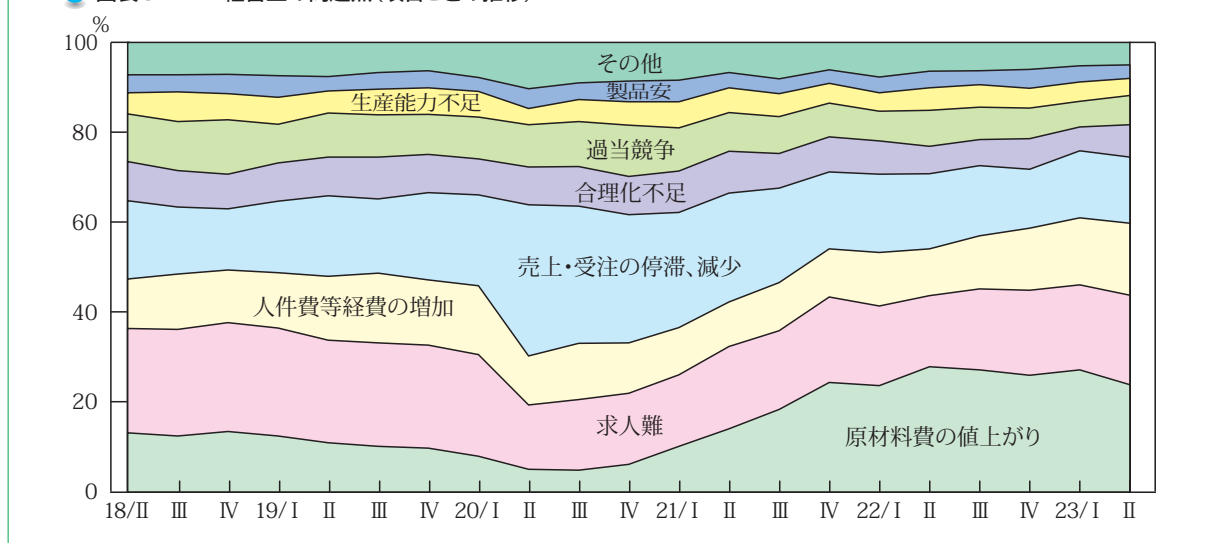
～「原材料費の値上がり」が最多、「求人難」「人件費等経費の増加」が続く～

図表3－1 経営上の問題点

(単位：％)

項目	23年 1～3月期	23年 4～6月期	前期比増減	回答割合の高い業種
原材料費の値上がり	71.8	61.5	△10.3	食料品、電気機器、輸送機器
求人難	49.9	51.0	1.1	建設業、木材木製品、サービス業
人件費等経費の増加	39.2	41.0	1.8	木材木製品、小売業、輸送機器
売上・受注の停滞、減少	39.4	37.6	△1.8	木材木製品、窯業土石、一般機械
合理化不足	14.0	18.4	4.4	木材木製品、輸送機器、食料品
過当競争	15.2	16.8	1.6	食料品、卸売業、繊維
生産能力不足	11.4	9.8	△1.6	木材木製品、輸送機器、食料品

図表3－2 経営上の問題点(項目ごとの推移)



注：図表3－2の分母は、本項目（問題点）についての回答数（複数回答）合計。

経営上の問題点をみると、「原材料費の値上がり」が引き続き最多で、次いで「求人難」「人件費等経費の増加」となった。

これまでの推移をみると、「原材料費の値上がり」は一服感がみられる一方、「求人難」「人件費等経費の増加」は増加傾向にある。